

安楽寺(長浜市)

滋賀県長浜市は、新幹線停車駅の米原市の北側に有り、滋賀県の北東部に位置し、湖北と言われる福井県境までの1市6町が合併した広域な市です。観光都市の一面を持ち、黒壁ガラス館、曳山まつり、冬の盆梅、竹生島など、数々の史跡、文化財が残っています。その中に足利氏とゆかりの深い安楽寺があります。安楽寺は細江町字安楽坊にあり、参道を通り石橋を渡れば、老松の松並木が続き、広大な田園の中に、藤原時代の荘園の面影をとどめています。また、尊氏の帰依した天竜寺開山夢窓国師の作といわれる庭園は、東に伊吹山、西に遙か比良比叡山系を眺め、前方に数多くの老松を借景とする山水廻遊式鶴亀庭園です。また、尊氏の遺命により造られた尊氏の爪墓が現存しています。その

右前に第一名石「進み石」があり、この石のいわれは、尊氏と直義との争いの際、尊氏公北国街道を北に進軍中、安楽寺の東にて石の呪いにて軍馬進まず、尊氏公難儀の時当山第三世万叡和尚に助けを求め、和尚の法力により石の呪いを解き供養の末進軍勝利する。その恩義に報い將軍家直轄寺院として300石の墨付と宮中の御絵所で描かれた尊氏公画像を賜る。

現在は、宝物館に尊氏公位牌と共に展示してあります。



安楽寺足利尊氏爪墓



相光寺(京丹後市)

天上界と現世を松並木のハシゴで結ぶ宮津市の天橋立は平安時代以来、世の人を魅了してやまない天下の景勝地です。行幸がままならない天皇は清涼殿の襖に橋立の景勝を画かせて思いを馳せ、公家や文人墨客は京都↓橋立の片道3日の距離をいわずに「遠くても近しい」丹後天橋立へ。人がひとを誘いました。室町3代の足利義満公も虜になった一人。51年の生涯で6回も橋立遊覧を楽しんでいます。(4代義持公も1回)

天橋立から時間的距離20分の京丹後市に立地しています。一般寺院ですので足利家と史実を共有していません。京丹後市も足利家との間に地縁がありません。足利家と住職個人の縁故関係による特例の会員席です。

相光寺はその天



天橋立-飛龍観

